

# 平成29年 業種別労働災害発生状況

(平成29年7月末現在)

室蘭労働基準監督署

区分 業種別	平成29年			平成28年同期			対前年		業種割合	平成28年確定値		
	死亡 [ ]内は 転倒災害	休業 [ ]内は 転倒災害	合計 [ ]内は 転倒災害	死亡 [ ]内は 転倒災害	休業 [ ]内は 転倒災害	合計 [ ]内は 転倒災害	増減数	増減率		死亡	休業	合計
全産業合計	4	106 [44]	110 [44]		83 [31]	83 [31]	27	32.5	100.0	5	195	200
製造業	1	20 [4]	21 [4]		13 [4]	13 [4]	8	61.5	19.1		28	28
食料品		4 [3]	4 [3]		5 [2]	5 [2]	-1	-20.0	3.6		10	10
木材木製品		1	1		1	1			0.9		1	1
窯業・土石		2	2		1	1	1	100.0	1.8		2	2
鉄鋼業	1	3	4		2	2	2	100.0	3.6		5	5
金属・機械		3	3		2 [1]	2 [1]	1	50.0	2.7		3	3
輸送用機械		2	2				2	-	1.8		1	1
その他の製造業		5 [1]	5 [1]		2 [1]	2 [1]	3	150.0	4.5		6	6
鉱業・土石採取業								-				
建設業	1	12 [3]	13 [3]		10	10	3	30.0	11.8	4	31	35
土木工事業	1	4 [1]	5 [1]		2	2	3	150.0	4.5	2	10	12
建築工事業		7 [2]	7 [2]		7	7			6.4	1	14	15
木造建築業		1	1				1	-	0.9		4	4
その他の建設業					1	1	-1	-100.0		1	3	4
道路貨物運送業	1	12 [3]	13 [3]		8 [1]	8 [1]	5	62.5	11.8		16	16
その他の運輸業		5 [1]	5 [1]		1 [1]	1 [1]	4	400.0	4.5		2	2
陸上貨物取扱業								-				
港湾運送業								-				
林業	1		1		1	1			0.9		1	1
漁業								-			1	1
卸売・小売業		17 [10]	17 [10]		13 [8]	13 [8]	4	30.8	15.5		28	28
社会福祉施設		9 [5]	9 [5]		6 [4]	6 [4]	3	50.0	8.2		20	20
旅館業		5 [4]	5 [4]		5 [3]	5 [3]			4.5		11	11
清掃業		6 [4]	6 [4]		8 [3]	8 [3]	-2	-25.0	5.5		12	12
上記以外の事業		20 [10]	20 [10]		18 [7]	18 [7]	2	11.1	18.2	1	45	46

本統計は、労働者死傷病報告(休業4日以上)により集計したもので、[ ]内の数字は、転倒災害の件数で内数です。  
 本統計は、速報値であり後日修正されることがあります。  
 本統計は、北海道労働局ホームページからダウンロードできます。

## ○労働災害増加中！

平成29年7月末現在において、対前年と比べて**27件(32.5%)増加**しております。  
 労働災害全体の4割が転倒による災害となっており、特に第三次産業(「卸売・小売業」から「上記以外の事業」)では、転倒災害全体(44件)の約8割(33件)を占めています。  
 「STOP！転倒災害プロジェクト」を推進し、チェックリストを活用した総点検を行い、職場環境の改善を図ってください。

○「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」を展開し、重点的な取組を進めましょう。  
 キャンペーン期間：平成29年5月から9月まで。



平成29年7月末 死亡労働災害事例

発生月	時刻	業種	事故の型	起因物	災害の状況
1	11時台	道路貨物 運送業	交通事故	トラック	被災者は、トレーラーの積み荷を下ろした後、国道を走行していた際、路面が凍結していたため、スリップして対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトレーラーに正面衝突したもの。 相手方のトレーラーの運転手も膝や肩等を骨折する重傷。
2	9時台	鉄鋼業	有害物との 接触	有害物	被災者は、製鋼製造工程で発生するダストの無害化処理を行うため、薬品を使用し、作業していたところ、何らかの理由により、別の薬品が混ざり、発生した硫化水素にばく露され、硫化水素中毒(疑い)になり、死亡したもの。
4	13時台	林業	激突され	立木等	被災者は、木を伐倒した後、退避していたところ、伐倒した木が跳ねて退避していた被災者に激突し死亡したもの。 なお、伐倒した木(樹高約25メートル)の下敷きになっているところを発見されたもの。
4	14時台	建設業	崩壊、倒壊	立木等	被災者は、伐倒する木(樹高約7メートル)にチェーンソーで切り込みを入れた後、木にかけていたワイヤーロープで引いて倒す予定であったため、引く方向とは別の方向に退避していたところ、木がミシミシと音を立てて被災者側に倒壊し接触。外傷性ショックにより死亡したもの。

平成28年 死亡労働災害事例

発生月	時刻	業種	事故の型	起因物	災害の状況
8	12時台	教育・研究業	墜落・転落	屋根	台風10号の影響により、屋根の一部が剥がれていたため、状況を確認しようと屋根上に上がり移動していたところ、屋根のスレート板を踏み抜き墜落した。頭部を強く打ちつけ、意識不明となっていたが、平成28年9月に死亡したものの。
9	13時台	建設業	激突され	移動式クレーン	被災者は、浮きクレーンのブームを定位置に置くため、船上でフックを仮置きする作業を行っていた。 フックの向きを変えるため、浮きクレーンのブームを下げた際、クレーンの下部に固定していた補巻用のワイヤーロープが緊張し、ワイヤーロープの取付金具が破断。 その反動でワイヤーロープが約30メートル先のフック付近にいた被災者の頭部に当たり、死亡したものの。
11	11時台	建設業	墜落・転落	移動式クレーン	急斜面の維持管理工事において、斜面上で伐木した樹木を移動式クレーンでつり上げ、地上に降ろす作業を行っていた。 被災者は、移動式クレーンでつり上げられた搬器に搭乗し、地上にいる者に合図していたところ、高さ約13メートルから搬器と共に落下し、死亡したものの。
12	10時台	建設業	墜落・転落	車両（解体用） （解体用機械）	4階建RC造の解体工事において、被災者は屋根上で解体作業を行っていた。 解体した屋根材を集め、それを解体用つかみ機を使用して地上に降ろしていたとき、屋根上で作業をしていた被害者が約12メートル下の地上に墜落し、死亡したものの。 被害者が安全帯を取り付けていたロープが解体用つかみ機のバケットに引っ掛かったことにより、被災者がバランスを崩したものと推定される。
12	8時台	建設業	墜落・転落	足場	被災者は、タンク内に組まれた足場上で、塗装の準備作業として内壁の結露を拭き取る作業を行っていたところ、足場中心にあった開口部からバランスを崩して約14メートル下のタンク底部に墜落した。 開口部には、手すり等が設けられておらず、被災者は安全帯を着用していなかった。